

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年十二月度 入選句（投稿総数二千四百二十二句・小中生投句数千七百七十六句）

特選

選者 和田勝子

庭さきの石のくぼみにうすごおり 大垣市 北村 帆乃香(小五)

冷えた寒い朝に庭を散策していた時の様子でしようね。注意深く周囲を観察していらつしやる様子が目に浮かびます。石のくぼみのわずかな水たまりに薄氷が張っているのを発見した作者。本当に細かい面、ちよつとしたことも見逃すまいという気持ち、考えが伝わってきます。「石のくぼみに」「うすごおり」の表現から伝わってきます。日頃から、細かい所、小さい面に気をつけて生活していらつしやる様子が十分伝わってくるすばらしい句ですね。

息白し走る私 はほお赤し 大垣市 平塚 美海(小六)

毎日欠かさずジョギングをされていらつしやるのでしようね。寒くなってきた今日も継続していらつしやる様子が目に浮かびます。

この頃は、冷えてきて吐く息も白くなっていますが、作者は意志が強く「走る」ということを怠らず、継続しています。頬が冷たくても頑張つて走つていらつしやる様子が「走る私はほお赤し」という表現でよく分かります。心豊かな素直な句です。

かれはまうきたかぜにのりたびにでる 大垣市 桐山 美里(小一)

寒い日でも外に出て遊んでいる時の様子を詠まれたのでしようね。

公園や路上の枯葉が北風につてカサコソと舞う様子をじつと眺めていると、何だか遠くへ旅に行くように思えたのでしようね。

夢のあるとってもロマンチックなすてきな句ですね。

秀逸

半ズボン寒さこらえて持久走 大垣市 多賀 文香(小五)

冬の風はだにじんじんつきささる 大垣市 沖 凜 爽(小三)

エラーした外野の背中 大吹雪 大垣市 石川 侑季(小六)

お茶を飲みほつと一息日向ぼこ 大垣市 中村 玲央(小六)

ふろのなかゆずをうかべてぽつかぽか 大垣市 いい田 みゆ(小二)

きたかぜがぼくのほつぺたさわつてく 大垣市 伊藤 将輝(小二)

たこあげてぼくもお空をおよぎたい 大垣市 傍 島 倫(小二)

のきしたであまくなれなれ干柿や 大垣市 富田 優美(小四)

木の下でおちばたちがお昼ね中 大垣市 三輪 彩乃(小四)

オレンジのきれいなじゅうたん 金木犀 大垣市 前田 るい(小四)

入選

金閣寺秋空バックに光ってる 大垣市 大橋 祐(小六)

参道に紅葉がまってる法隆寺 大垣市 辻 龍(小六)

たべすぎたぼくのてのひらみかんいろ 大垣市 もり しおん(小六)

おとしだまお手つだいばいがえし 大垣市 齋藤 光起(小二)

校庭の遊具の上で日向ぼこ 大垣市 長澤 蒼(小六)

雪のよるけっしょうたちのパーティーだ 大垣市 小林 千さ(小二)

おおそうじぼくのかかりはまどふきだ 大垣市 内藤 義貴(小二)

雪うさぎ赤のみだけをのこしてく 大垣市 たかはし みづき(小二)

白いいきかいじゅう気分冬の朝 大垣市 後藤 幸太郎(小二)

水たまりこおりができたよバリバリ 大垣市 平田 ひなの(小二)

入選

雪合せんみんなでやろうとかけつけた 大垣市 那須 壮真(小二)

冬の夜かるたあそび大はしやぎ 大垣市 那須 壮真(小二)

たきびがねパチパチいっておどってる 大垣市 林 心(菜小三)

いきすればしろいけむりがもつくもく 大垣市 伊東 海陽(小三)

秋の空 鱗し雲がもくもくと 大垣市 小島 暖大(小四)

手のひらですがた変えゆく六ツ花 大垣市 古田 晏寿(小四)

いちようの葉風にゆらされひらひらと 大垣市 西脇 凜華(小六)

うぐいす張り雨音まじり風冷し 大垣市 武田 さくら(小六)

大縄でみんなで数える息白し 大垣市 矢嶋 瑠奈(小六)

吹くたびにページをめくるすきま風 大垣市 北島 成愛(小六)

あと少しねさせてくれと冬の朝 大垣市 石原 隆司(小六)

選者吟

紅白の葉ぼたんの渦日を集む

勝子